



東広島市立磯松中学校 2 学年

第5号 令和6年7月26日(金)

マナー講座で学んだことをどう生かす？

7月18日(木)1、2時間目にマナー講座が開かれました。ビジネスマナーに関するプロフェッショナルの藤原美智子先生をお招きし、“職場での気持ちのよい対応の仕方や言葉遣い”について学びました。日ごろの学校生活では気付かないような細かな心配りや、職場におけるやるべきこと・やってはいけないことなどを教えていただきました。職場体験学習の様々な場面で参考になると思います。9月の職場体験に向けて、よく聞き、よく学び、実践できるようにしましょう。

一番心に残っているのは、The future is not far away. It is now. (未来は今。遠くない。)ということや、何か行動するときは先のことを考えてということです。わからないことをそのままにせずがんばっていきたいです。

「自分の人生は自分のもの」という言葉を聞いて、人に合わせるのではなく、自分でしっかりと考えようと思いました。

マナー講座で学ぶことは態度だけだと思っていましたが、マナーで大切なのは相手を敬う心だと聞いて驚きました。

マナーは自分と相手の両方を大切に、傷つけないことだということを知り、まずは相手と自分を大切に、尊重することを心がけていきたいと思いました。

自分の夢をすぐにあきらめず、まずは挑戦してみようと思った。

「考えて、考えて、考えて」、という言葉がとても印象に残っています。考えるということは状況によって変えないといけないので難しいと思うけれど、それが相手のことを思いやるマナーにつながるということなので守っていききたいです。



さあ自分の意見を示そう！



ペンを渡すにはどうする？



美しい立ち方と礼の仕方…できていますか？



夏休みをどう過ごすか

夏休みをどのように過ごしていますか。毎年終了間際に慌ててやってしまう宿題の進み具合は、今年はどうでしょうか。夏休み前の天根先生からの話にも合った通り、長い夏休みでないとできないこともたくさんあります。この夏休みにしかできないことに打ち込んでほしいものです。「毎日コツコツ」を続けること、しっかりと準備して1日でやりきること、それぞれ違いはあるでしょうが、みんなが、自分に納得できる夏休みにしてください。

また、夏休み中に多くの運動部では3年生が引退し、2年生が中心となって活動を運営していくこととなります。いつまでも3年生を頼りにすることはできません。どうやって動いていくか、自分で考えて行動してほしいものです。



夏休みの思い出



2学年の先生方にどんな夏休みを過ごしたのか、お尋ねしました。それぞれに、楽しく個性的な夏休みです。そして、その過ごし方が現在につながっていると感じます。 何かに打ち込んだことが、今の自分を作っているのでしょう。

二川義美先生

夏といえば合宿。学生時代、仲間と目標を達成するため陸上の合宿でたくさん走り込みました。やっただけ必ず結果に表れます。皆さんも何か一つ達成感のある夏休みにしてください。

天根駿先生

バナナを酒に漬け込み、ストッキングに入れ、木につるして、クワガタ、カブトムシをとる準備をバッチリして、当日、息子と4:30 起きてとりに行ったけれど、GET できたのはカタツムリだけだった。

小坂まどか先生

小学校は毎日プールに通って真っ黒になっていた。親戚のおさがりの白紺のストライプの水着を着ていた時、日焼けも、しましになっていたことがある。広商や崇徳の高校野球のラジオが校内放送で流れていたのを、泳ぎながら聞いていた。

中学はカンカン照りの暑〜い中、外で部活の練習をし、水を撒く名目でバケツの水をかけあっていた。そういえば、私の時代は「水を飲むな!」の時代です。真面目に飲まなかったなあ。よく熱中症にもならず…

橋詰久美子先生

高2の夏休み、登山部の合宿で13時間かけてバスで長野に行ったこと。今まで登ったことのない高い山で、気温の違いや生えている植物の違いが見てとれておもしろかった。何よりしんどい思いをして登った先の景色は本当に素晴らしく感動だった。



土屋智敬先生

中学校の時、美術部の活動がない時は、市内の一番大きな本屋さんに通い、すべての棚の本をチェックして、立ち読みできるものはしていました。今と違って昔はおおらかで、見逃してもらっていたのです。後半はお客さんに尋ねられて困っている書店員さんに教えてあげることができるようになっていました。夜はそこで買った本を読んでいた。あの頃はホントに本が大好きだったなあ。と懐かしく思い返しています。

谷本友輝先生

自由研究は人一倍頑張っていました。特に中学2年生は当時理科で学習した人の体のつくりの単元から、魚の臓器が人とう違うのか調べたりするため、解剖しては料理して食べるというのを繰り返しました。これがきっかけで今まで苦手だった魚を食べられるようになり、ついでにその研究は賞状もいただきました。

中田宜和先生

中学時代の吹奏楽コンクール。毎日、一日練で音楽に集中していた日々が幸せでした。

小田原瞭雅先生

高校3年生で別々の大学に行く友達と一緒に花火大会で花火を見たことが一番の思い出。

平野一輝先生

中学時代、サッカー部の1日練で、午前練の後、エアコンの効いた図書室で友達と話しながら昼食をとっていた時間が何だかんだ一番思い出に残っています。



輝く夏のグラウンド